令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名	浪速区
学 校 名	難波元町小学校
学校長名	剣持　明広

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和６年４月18日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・難波元町小学校では、第６学年　４３　名

学校名　難波元町小学校

令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率が全国平均を昨年度は0.2ポイント上回ったが今年度は5.3ポイント上回った。また、大阪市平均を昨年度は1ポイント上回ったが、今年度は7ポイント上回ることができた。算数では全国平均を6.6ポイント、大阪市平均を8ポイント上回っていた。領域別でみてみると、国語では「情報の扱い方に関する事項」が全国平均より3.2ポイント、大阪市平均を1.3ポイント下回った。それ以外では「言葉の特徴や使い方に関する事項」および「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」すべて全国平均、大阪市平均を上回ることができた。また、算数は「データの活用」が全国平均より1.3ポイント下回ったが、それ以外の「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域で全国平均・大阪市平均を上回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］「結果の概要」から「情報の扱い方に関する事項」以外は全国平均・大阪市平均を上回る結果であった。漢字先取学習や漢検に取り組んだ成果が表れている。また、従来から取り組んでいる「みんなの前で話す」「聞いたことをメモする」ことなどを継続していき、昨年度から研究教科として国語科を位置づけて、さらに推進していくことで改善していきたい。

［算数］「データの活用」以外は全国平均および大阪市平均をすべて上回った。特に算数の中でも難しいとされている「変化と関係」において全国平均を10.3ポイント上回ることができたのは、大きな成果である。一昨年まで「基礎基本の定着と、数学的な考え方を高める」をテーマに研究をすすめてきたこと、また、算数科の授業で習熟度別少人数指導やティームティーチングを行ってきたことの成果が表れていると考える。さらには「脳トレ」の百マス計算も定着し、計算力のアップや集中力の高まりが平均正答率の向上に繋がっている。

質問調査より

「自分にはよいところがある」と肯定的な回答をしている児童は昨年82.6ポイントだったが本年度は89.6ポイントと7ポイント上昇している。中でも、最も肯定的な回答が全国平均を8.7ポイント上回る結果になった。これまでたてわり活動や表現する機会を大切にしてきたことや各学級で取り組んでいる活動、そして全学年で取り組んでいる「脳トレ」等で各自が記録を伸ばすなど、自己肯定感を高める結果につながっていると考える。また、「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的な回答をした児童が93.8ポイントであった。引き続き学ぶことの意味を肯定的にとらえられる児童の育成に努めていきたい。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に肯定的な回答をした児童が昨年度71.4ポイントから本年度は81.3ポイントと上昇はしたが、全国平均、大阪市平均は下回る結果となった。日々の学習場面において「授業構成の工夫」「伝え合い活動の充実」「ふりかえり活動」の3つの方策を模索しながら「主体的・対話的で深い学び」へと繋がる授業を行うことで改善に繋げていきたい。

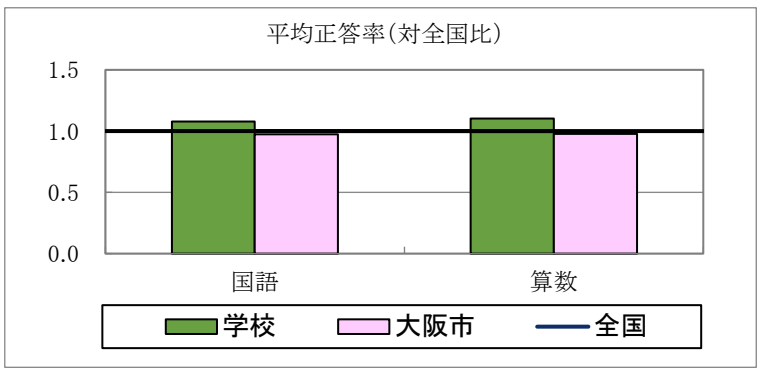
今後の取組(アクションプラン)

一昨年までの4年間研究教科として位置付けてきた算数科においては、一定の成果が見られた。引き続き低学年からの少人数指導やＴＴ指導の中にも対話的な学習活動を意識して取り入れるなど「論理的思考」の育成に努めていく。常に寄り添って問題に対する考えを伝えあうなど学生ボランティアなどを増員し、児童一人一人が課題に対してより能動的に深く考えることができる環境を整えていきたい。昨年度より国語科については研究教科として位置づけ、引き続き本年度も取り組んでいく。「授業構成の工夫」「伝え合い活動の充実」「ふりかえり活動」の3つの方策を模索しながら「主体的・対話的で深い学び」へと繋がる授業を行うことで本校の特色ある学校行事や普段の生活の中で生かしていこうとする意識を高めたい。また、現在全校児童で進めている「脳トレ」を引き続き実施・検証しながら、児童一人一人が「知・徳・体」のバランスのとれた「生きた学力」を向上させる取り組みを進めていく。今後も児童の学びに向かう姿勢や態度を育み、特に学力に課題のある児童への指導、支援に注力していきたい。

【 全体の概要 】

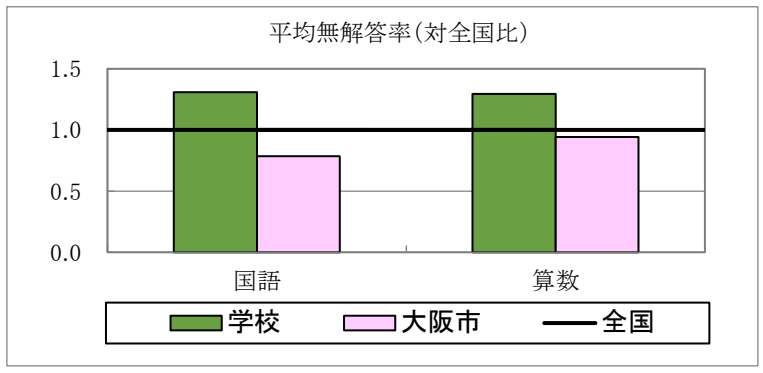
平均正答率（%）

	国語	算数
学校	73	70
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4



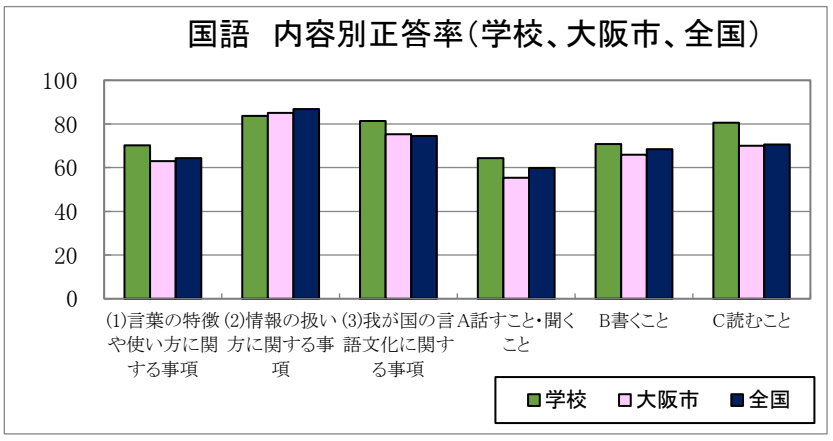
平均無解答率（%）

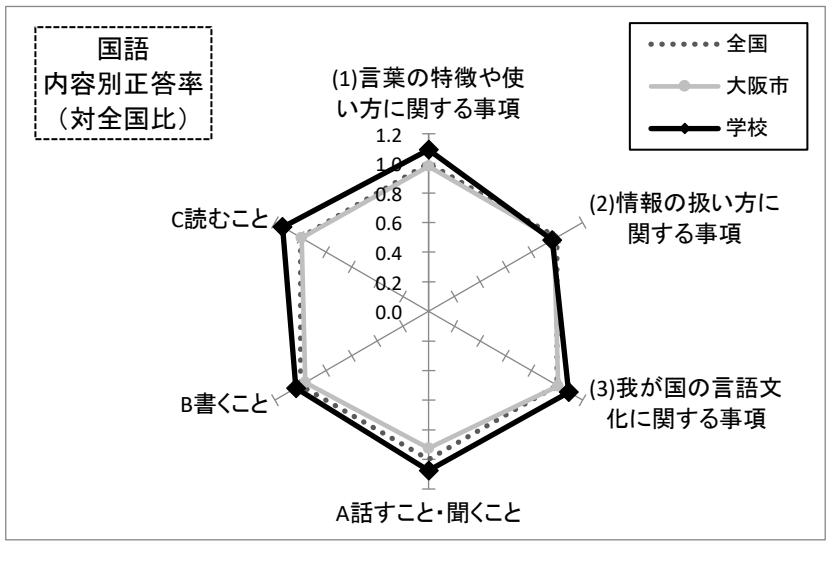
	国語	算数
学校	5.5	4.4
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4



【 国 語 】

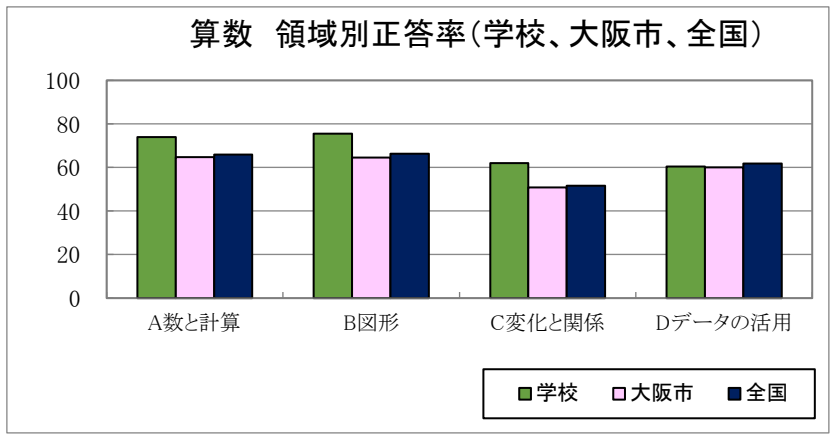
学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	70.3	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に関する事項	1	83.7	85.0	86.9
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	81.4	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	64.3	55.3	59.8
B 書くこと	2	70.9	65.9	68.4
C 読むこと	3	80.6	70.1	70.7

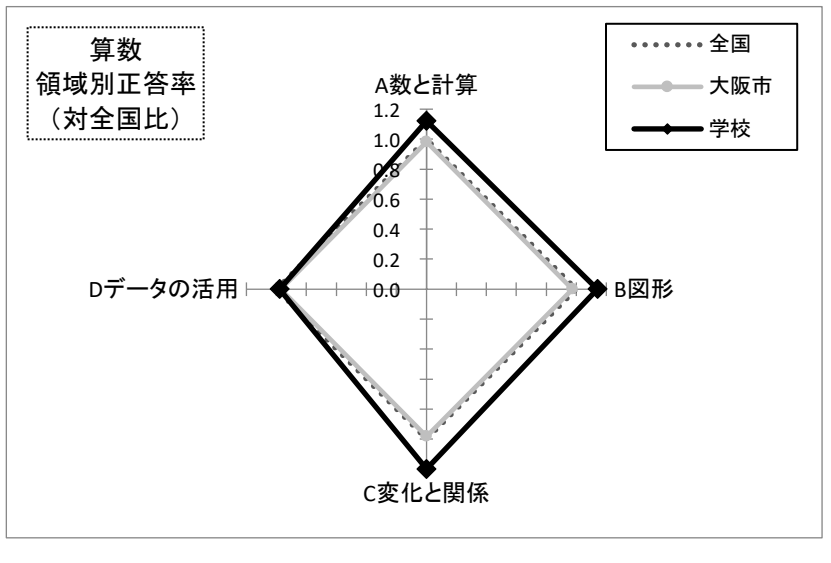




【 算 数 】

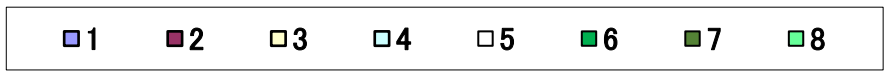
学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	74.0	64.8	66.0
B 図形	4	75.6	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	62.0	50.8	51.7
D データの活用	4	60.5	60.0	61.8





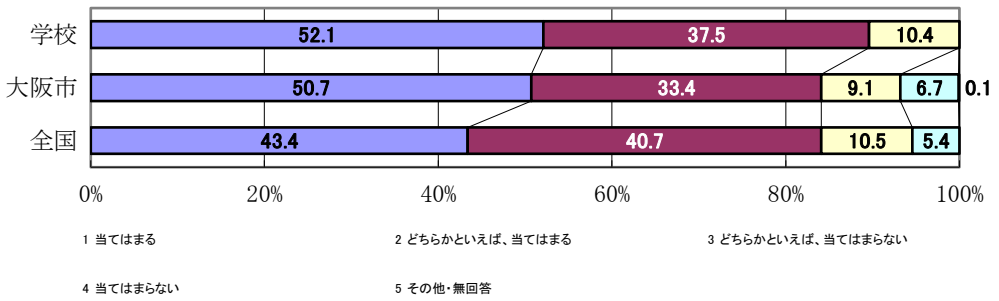
児童質問より

質問番号
質問事項



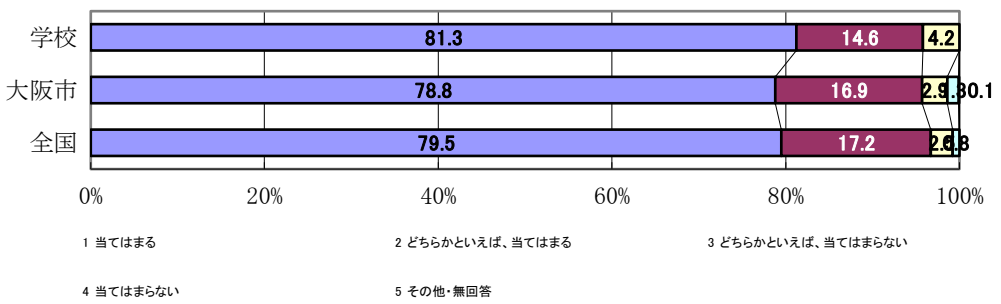
9

自分には、よいところがあると思いますか



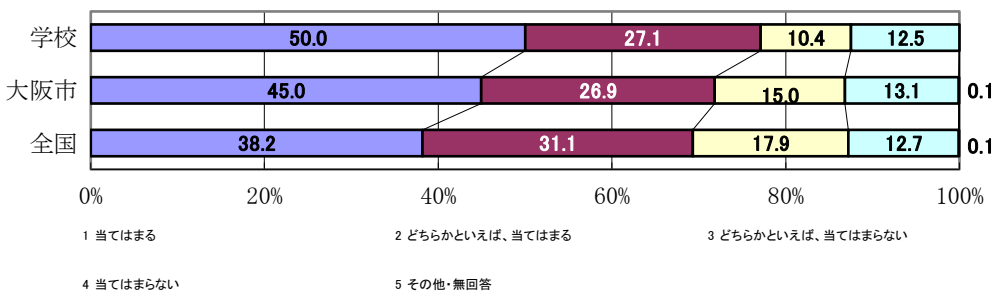
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



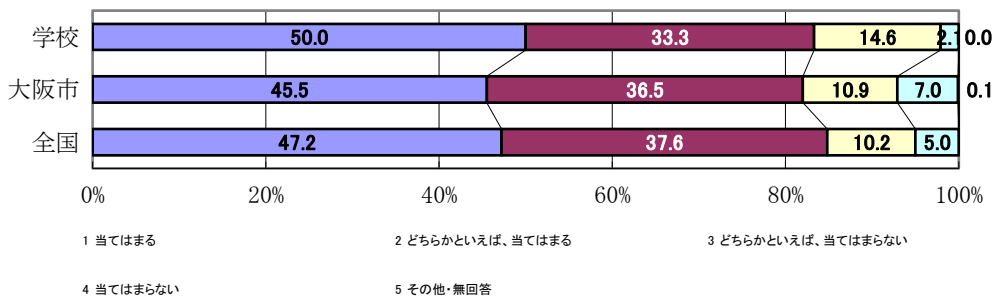
61

英語の勉強は好きですか



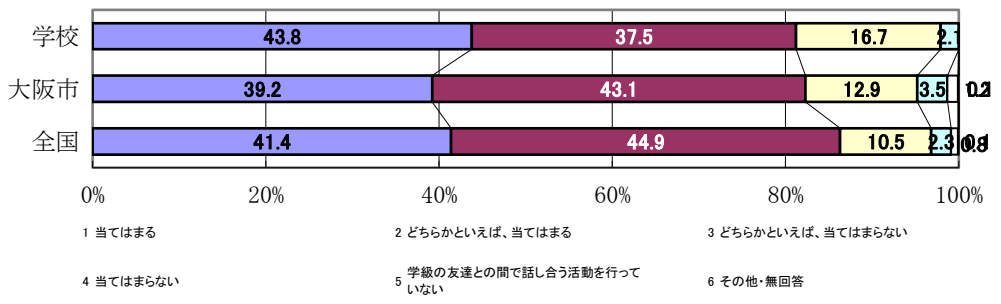
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



33

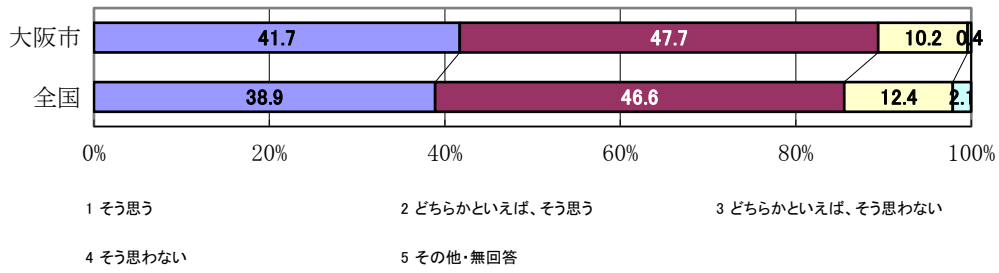
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

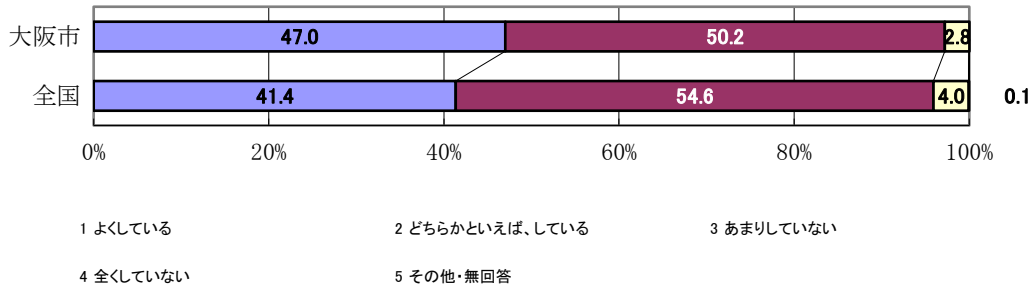
質問番号	質問事項
7	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

学校 **「そう思う」を選択**



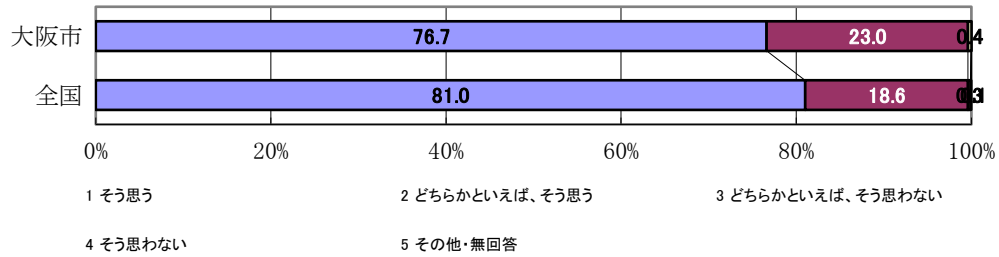
15	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

学校 **「よくしている」を選択**



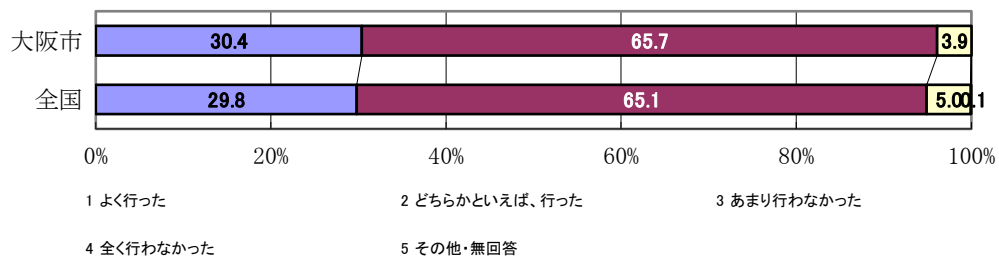
21	各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか

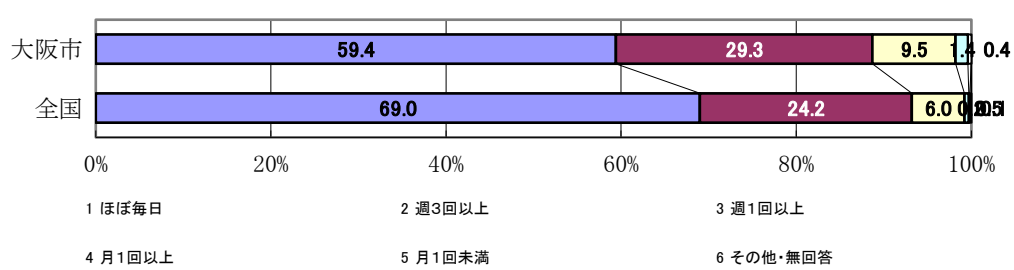
学校 **「そう思う」を選択**



43	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

学校 **「よく行った」を選択**



56	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 **「ほぼ毎日」を選択**